

# 新入生 287名の皆さん

普通科 246名 国際教養科 41名

## ご入学おめでとう



発行所 上田染谷丘高校  
新聞委員会  
発行人 学友会  
編集人 新聞委員会  
代表 新三河内印刷  
印刷 三河内印刷

### 桜咲く入学式

今日4月6日、上田染谷丘高校の入学式が本校第一体育館で行われた。新学年は普通科6クラス、国際教養科1クラスの7クラスで287名の新一年生が入学した。新入生は、新しい生活の場と新しい学友に大きな希望を抱き、胸を高鳴らせていることだろう。式の中で学校長の井村敏明先生は、新入生に向けて「昨日の自分より今日の自分が一歩前進していることが大切」と激励した。

井村校長先生は式辞の中で次のように語った。「将来の変化を予測することが困難な時代を生きる高校生にとって、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら課題を発見し、他者と共同してその解決を図り、新しい知・価値を創造する力を身につけることが大切とされています。皆さんが、高校3年生になる2020年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年ですが、実はその年の大学入試が大きく変わるうとしています。今その準備のために議論が進めら



壇上中央は式辞をのべる学校長 井村敏明 先生

れています。大学入試のために我々は授業をやっているわけではありませんが、入学式の内容も方法も大きく変わっていきます。例えば、英語に関して言うなら、これまでの読む・聞くという能力に加えて、書く・話す力も試され、それに伴い外部試験の導入も議論されています。さらに、これまで以上に説明能力、発信能力が求められています。高校生活を通して「どれだけのことか」「どのようにやってきたのか」を他者に説明できるようにしてほしいと思います。

これから始まる高校生活その一日一日、一時間一時間の学びが、皆さんにとっての血となり肉となること、そしてその結果、皆さんが大きな志を抱き、自分の意志で学び、自分の頭で考え、自ら決断し、仲間とともに勇気を持って行動できる、そんな力を身につけて、本校を巣立っていくことを願っています。」

今日から染谷生となった新入生の皆さんの今後の活躍に期待する。

### 染谷丘高校の特色を紹介

染谷の特色として、「購買」と「染谷生の声」を新入生に紹介したいと思う。とくに染谷生の声は、どういったものかわからない人が大半だと思われるので、染谷への興味が一層高まる機会となるだろう。

#### 購買について

中学と高校の違いの一つが昼食だ。弁当を毎日持ってくるのが基本だが、通常授業日の昼休みに購買も利用できる。

「しんべる」というパン屋さんがある。一、二棟間の東側渡り廊下で、さまざまな種類のパンを売っている。昼食を持参し忘れた生徒や、お弁当だけでは物足りない生徒が利用することが多いようだ。

皆さんのパンが店頭と並んでいる中で、期間限定のパンとよく売れるパンをたずねてみたところ、冬季限定メニューが「チョコレー トデニッシュ」と「みかん と生クリームのパン」で、よく売れるメニューは、メロンパン、米粉パン、サンドイッチ、チキンカツ、エビカツ、ラスク、スコーンだそう。



パン屋さん しんべる

甘いパンから惣菜パンまで、おいしいパンを取り揃えてくれている。

しんべるの隣では、中村屋という弁当屋さんもある。カレー、チャーハン、焼きそば、カツ丼などを売っている。毎日とても混み合っているが、しんべる、中村屋さんを利用して、高校生になった気分を実感してみるのがよいかもしれない。

### 「染谷生の声」について

「染谷生の声」とは、全校生徒が参加し、原稿用紙二枚分ほどの主張したいことを全校の前で発表できる会で、染谷祭前日に行われる。普段は知らない身近な友達的主張を聴くことができる貴重なスピーチ大会である。

クラス内選考、学年選考を通過した各学年三人、計九人という人数で、内容の濃い発表が毎年体育館で繰り広げられている。

テーマが自由であるため、普段は目につかないようなことをテーマにする人もい



### 新任の先生紹介

今年度新しく15人の先生方が赴任された。次号にてより詳しく先生方を紹介します。

- |      |          |
|------|----------|
| 校長   | 井村 敏明 先生 |
| 教頭   | 白田 悦子 先生 |
| 国語   | 尾台真喜男 先生 |
| 国語   | 上原 良明 先生 |
| 数学   | 小池 隆信 先生 |
| 数学   | 滝沢 保幸 先生 |
| 理科   | 山口 誠 先生  |
| 理科   | 山屋 真琳 先生 |
| 理科   | 鮎沢美佐子 先生 |
| 保健体育 | 山口 誠 先生  |
| 保健体育 | 小山ひかり 先生 |
| 外国語  | 清水 美保 先生 |
| 外国語  | 宮嶋 沙紀 先生 |
| 外国語  | 滝澤 麗 先生  |
| 事務   | 小野原 大 先生 |

### お祝いの言葉 学友会副会長 白井 悠介

新入生のみなさん、はじめまして。学友会副会長の白井悠介です。まず初めに、ご入学おめでとうございます。

今年度は定員数削減もあり長野県二の高倍率となりましたが、皆さんが染谷に憧れや魅力を感じ、チャレンジしてきてくれたことをとてもうれしく思います。そ

して入学してからもまだまだチャレンジしていくことを期待しています。それは学業もそうですが、班活動や学友会活動など染谷には活発で面白いことがたくさんあります。これからオリエンテーションや対面式を通じて早く染谷に慣れてもらいたいと思います。

### 第56回染谷祭テーマ決定

対面式で染谷祭実行委員会より正式に発表される予定

## Journey ～まだ見ぬ染谷へ～



Journeyは「発展」や「旅」という意味。未だかつてなかったようなものを、この染谷祭でみんなで作り

上げていこう、という思いが込められている。自分たちにしか作れない染谷祭を作り、新しい染谷祭への道を染谷生全員が歩むような一年にしたい。どんな染谷祭にしたいか、染谷祭実行委員会委員長の黒沢健太郎さんは「染谷祭に足を運んでくださった方が主体となって参加し楽しむことが出来るようにしたいです。また、染谷生一人一人の個性や努力をアピールできる良い機会になるように染谷祭にしたいです」と話す。

# 染谷の魅力 海外研修が充実

昨年度、多くの染谷生が様々な海外研修に参加した。海外研修は国際教養科がある染谷丘高校ならではの学びの機会で、近年は国際教養科だけでなく普通科の生徒の参加も増えている。

## 韓国

昨年、12月7日(木)から12日(火)まで5泊6日の日程で1年生8名(普通科1名、国際教養科7名)、2年生13名(普通科6名、国際教養科7名)、合わせて21名の生徒が、宮崎清孝前校長、転任された小宮山理絵先生引率のもと韓国を訪問した。

小宮山先生よりその概要を報告してもらった。

「外務省は対日理解促進交流プログラムである『JMS 2017』における日本と韓国との人的交流事業を実施している。今回の訪問は、公益財団法人・日韓文化交流基金が青少年交流事業として取り組んでいるもので、信州の高校生と韓国の高校生が、政治、経済・産業、社会、文化、歴史等への理解を深め、かつ人的交流を通じて一層の相互理解増進に寄与することを目指すものであった。参加者は、プログラムの参加経験、日韓の魅力などをInstagramやFacebook等のソーシャル・メディアを通じて積極的に発信することが義務付けられ、また帰国後の報告会開催が求められている。今回の訪問では、在韓日本大使館で日本の今の文化がどのように伝わっているかを学び、また、徳山高校と梅香女子情報高校の訪問や、歴史的建造物である景福宮や北朝鮮を肉眼で見ることができたオデッサン統一展望台も訪れ、韓国に対する理解を深め友好関係を築く貴重な機会となった。訪韓中に、生徒達は250件の発信をし(一人当たり約12件)、民間大使としての務めを十分に果たした。」

参加した渡邊花菜さん(3年7組)は昨年の2学期終業式で次のように感想を発表した。

「私達は、韓国の高校生と交流をし、韓国の文化を学んできました。3日目にはオドゥサン統一展望台から北朝鮮を見ました。北朝鮮にミサイルのイメージしか持っていない人も多いと思いますが、望遠鏡で、畑で働く親子を見ました。北朝鮮に住む人も私たちが何も変わらないのだなと感じました。」



伝統衣装のチマチヨコリを着て記念撮影

一を望んでいるようで、韓国側の国境付近には『自由橋』という、いつか自由に韓国と北朝鮮を往来できるようにという意味で作られた橋があります。

私自身、最初は他人事のように感じていましたが、今回の研修で、朝鮮半島の分断のきっかけを作ったのは日本だと知り、感じるものが多くありました。

より世界に目を向けて、正しい歴史を学び、同じ過ちを繰り返さないことが大切だと思います。皆さんにも是非、歴史を学んで、これからのあり方を考えてみてほしいです。」

## オーストラリア

3月5日から19日にかけてオーストラリア語学研修が行われ、1年生の国際教養科19人、普通科は例年より多く13人が参加した。

研修先のブリスベンでは Groves Christian Collegeで語学学習と高校の授業に参加し、ホームステイを中心にオーストラリアの文化、食事などを学んだ。

参加した宇野慧君(2年8組)に報告してもらった。「オーストラリアでの語学研修に参加した。自分の英語力を高めたい、他国の文化についてもっと知りたかったからだ。オーストラリアに到着して、しばらく観光をした後、ホストファミリーと対面した。二週間仲良くできるのか、食事は口に合うか、そして何より自分の想いを英語で伝えることができるのか、とても心配だった。でも、僕を迎え入れてくれた



ホストファミリーはとても温かくていつも僕にやさしくしてくれた。そこで僕の不安はなくなった。僕のホストファミリーは、両親、おばあさん、そして4人の子供たちみんなが明るく、個性豊かだった。子供たちとは毎日のように一緒に遊んだ。テレビゲーム、ダン

スゲーム、オセロ、オーストラリアで有名な手遊び。どれもとても楽しかった。ホストファミリーには様々な場所に連れて行ってもらったが、やはり一番はホストファミリーと過ごすということが思いに残った。

## 税について考える その②

### 新聞委員会が税務署を取材

昨年の11月に上田税務署の取材をした。税に関して気になることや、伝えたいことを職員の方谷川美佐子さんに伺った。前号に引き続きレポートする。

たばこ・酒税についてたずねると、「たばこや酒は、摂取すると健康被害を及ぼすため、その値段を上げることで、そういった被害を少なくして、医療費の削減も図っています」とのこと。確かに、たばこや酒が人に与える害は大きいし、たばこの煙はたばこを吸わない人にも影響があるが、それらを買う人々からの不満の声があるのも事実。それぞれの意見を尊重していくことが、今後大切になっ

ていくかもしれない。また、税の今後の課題についてもたずねた。「日本は高齢者の割合が高くなり、働き手が払う年金もそれに比例して多くなっています。このような状況で、税金をどのように使って働き手や高齢者の生活を支えていくのが課題になってきています」という。以前までは複数の働き手が一人の年配者を支えていたのに対し、超高齢社会を迎えた日本では、一人の働き手が一人の

## フィリピン

2月8日から11日までフィリピン・マニラでハローアールソンボランティアが行われた。

ハローアールソンとは貧困のために学校に通えない、病院に行くことができない子どものために、生活物資の支援、歯科医療を中心とした医療支援を行うフィリピンボランティアでは、四日間を通じて歯科治療の手伝い、歯ブラシの仕方の指導を行った。

参加した渡辺美琴さん(3年7組)に報告してもらった。「フィリピンで実際に活動をして、患者さんはこの活動を本当に必要としていることがわかりました。活動二日目に抜歯ブース

を担当したとき、小さな子どもたちが泣きながら治療をしていました。私はその光景に直面してやりきれない思いを抱きましたが、それをバネにして、心から向き合うことができました。ハローアールソンの先生や大人の方々は、私たち高校生に、これから自分たちに何ができるのか教えてくださいました。そして、活動前は自分が笑顔で励ますことがばかり考えていましたが



一致団結した参加者

フィリピンの子供達からは彼女らの生きる力の強さから笑顔が生まれて、それが私にとって大きなエネルギーとなることに気づかされました。

この活動を通じて、フィリピンの方々の笑顔を見て、誰かの幸せのために努力することができるとなりました。私は、これからもフィリピンの人々や貧困地域で暮らす人々を、今よりもっと幸せにできるに、このような活動を続けていきたいです。そして歯ブラシを一本でも多く寄付してもらえようように皆さんの人に発信していきます。」

## 編集後記

今号では、初めて校内印刷版として発行しました。入学式当日の発行なので新入生へ染谷を知ってもらえるような記事を書きました。今年度からは、今までよりもたくさん話題をより深くお伝えできるよう発行回数を増やしていきたいと考えています。一年間新鮮な話題を伝えていきたいと思えます。よろしくお願います。

(委員長 三河ひより)

新聞委員会は今号から本格的に正副委員長が主体となって新聞作りをおこないました。まだ慣れていない部分も多く、文も拙くて読みにくいと思われてしまうところがあるかと思いますが、全校の皆さんに楽しく読んでもらえるような新聞作りを心がけていきたいと思えますので、温かい目で見てください。ただ、温かい目で見ただけでは幸いです。

(副委員長 西澤 真輝)